

第 11 回 デフリンピック運営委員会 (議事概要)

1 開催日時

2025 年6月9日(月) 13 時 00 分から 15 時 00 分まで

2 開催場所

戸山サンライズ 全国障害者総合福祉センター 2階大会議室

3 構成員等

○委員(構成員)

委員長 久松 三二(一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事)
副委員長 薬師寺 道代(医師)
石原 保志(国立大学法人 筑波技術大学 学長)
延與 桂(公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長)
小椋 武夫(一般社団法人山梨県聴覚障害者協会 事務所長)
畑中 淳子(弁護士)
松橋 早友梨(デフリンピック選手)
渡邊 知秀(東京都スポーツ推進本部長)

○事務局

倉野 直紀(一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会 事務局長)

4 要旨

【事務局 説明】

- ・3月の第 10 回運営委員会では、皆様に 2025 年度事業計画案及び 2025 年度予算案についてご承認いただいた。
- ・本日は、2025 年度予算の修正について諮りたい。

【運営委員の辞任及び就任について】

(久松委員長)

- ・3月 31 日に太田委員、早瀬委員、古屋委員3名の委員より委員辞任の意向が出された。
- ・運営委員は、「デフリンピック運営委員選考規程」に基づき、デフリンピック運営委員会選考委員会において選考を実施し、審査・決定した運営委員候補者について全日本ろうあ連盟理事会へ議題提示し、承認を得て決定することとなっている。
- ・4月にデフリンピック運営委員会選考委員会を書面により開催し、運営委員会事務局から山梨県聴覚障害者協会事務所長の小椋氏、デフカーリング選手の松橋氏、東京都スポーツ推進本部長の渡邊氏を委員候補者として推薦し、審査および採決の結果、運営委員候補者として連盟理事会に議題提示することを承認いただいた。
- ・4月 26 日の連盟第1回理事会へ付議し、小椋氏、松橋氏、渡邊氏を運営委員とすることが承認され、正式に運営委員に就任いただいたことを報告する。
- ・では、3名の委員から一言ご挨拶いただきたい。
まずは、小椋委員、ご挨拶をお願いします。

(小椋委員)

- ・山梨県聴覚障害者協会事務所長の小椋です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

- ・これまで、全日本ろうあ連盟のスポーツ委員長として多くの国際活動を経験してきた。また、デフリンピックやアジア大会といったスポーツ大会の派遣の団長も担当していた。そのような経験を活かして、東京 2025 デフリンピックを盛り上げ、成功に導くために尽力する。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(久松委員長)

- ・次に、松橋委員、ご挨拶をお願いします。

(松橋委員)

- ・デフカーリング選手の松橋です。
- ・これまでの経歴としては、2019 年にイタリアで開催された冬季デフリンピックにスタッフとして参加、2023 年にトルコのエルズルムで開催された冬季デフリンピックには選手として出場しメダルを獲得した。また、その他の世界大会にもいくつか参加した経験がある。
- ・まだまだ力不足ではあると思うが、これまでの経験から、選手としての意見を申し上げられるかと思っている。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(久松委員長)

- ・最後に、渡邊委員、ご挨拶をお願いします。

(渡邊委員)

- ・本日付で運営委員として就任した、東京都スポーツ推進本部長の渡邊です。どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・2015 年から東京 2020 オリンピック・パラリンピックの組織委員会へ大会終了まで出向しており、その後は東京都でスポーツ行政を担当していた。そのため、デフリンピックについては招致の頃から実務に携わっていた。
- ・東京 2025 デフリンピックまであと半年を切る中で、東京都としても大会の成功に向けて全力を尽くしていく所存である。また、この運営委員会の場でも様々な話をさせていただきながら、皆様と一緒に大会を盛り上げて、大会を成功へ導くよう努力していきたいと思う。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・それではこれより、次第に沿って議事に入る。

○議題(1)2025 年度予算の修正について

(久松委員長)

- ・「2025 年度予算の修正について」、倉野事務局長より説明をさせていただく。

(倉野事務局長)

- ・今年3月6日に開催した第 10 回デフリンピック運営委員会で、2025 年度予算(案)をご承認いただいた。
- ・その後、3月末に繰越金が確定したことにより、その繰越金額約 156 千円を一般正味財産期首残高に計上したことに伴う修正である。
- ・繰越金 156 千円を広報費 50 千円から 200 千円に、雑役務費 900 千円から 906 千円に充てた。
- ・これを予算修正案として再度決議を求める必要があると考えるため、本日皆様にお諮りする次第である。

【質疑応答】

(久松委員長)

- ・出席者の方々から質疑応答を行い、採決に入りたいと思う。
- ・議題(1)2025 年度予算の修正について、皆様いかがか。
(質問・意見なし)
- ・では、採決に入る。賛成の方は挙手をお願いしたい。
- ・全会一致で、議題(1)2025 年度予算の修正について承認をいただいた。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・次に、報告に入る。

○報告(1)2024 年度デフリンピック・フェスティバル実施報告

(久松委員長)

- ・まず、2024 年度デフリンピック・フェスティバル実施報告について、倉野事務局長より報告させていただく。

(倉野事務局長)

- ・2024 年度デフリンピック・フェスティバル実施報告についてご説明する。
- ・デフリンピック・フェスティバルの目的は、デフリンピックやデフスポーツへの関心を高め、認知の向上、及び来たる東京 2025 デフリンピック大会に向けて全国の気運醸成を図ることである。
- ・2024 年度の開催方法は、今までデフスポーツやデフリンピックに関心がなかった層及び子ども達の目に触れる機会を増やすこと、そしてデフアスリートやデフ競技についてより一層周知を図ることを狙いとし、大規模集客施設でのイベント実施や自治体または民間の大規模集客イベントに組み入れる形で、全国9か所で実施した。
- ・当初は8回開催する予定であったが、資料2～4枚目にあるとおり、福岡市、青森市、横浜市、徳島市、富士見市、江東区、亀岡市、京都市、かほく市、白山市、名古屋市の11回開催することとなった。
- ・それぞれ、実施主体が地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政後援と開催の形は様々であるが、大会ビジョンにある「あらゆる人が協働」、「デフスポーツやろう者の文化への理解を促進」、「共生社会づくりに貢献」等に留意し、デフリンピックやデフスポーツについて関心や認知度の向上を図り、気運醸成に資するものとなった。
- ・また、それぞれから決算報告、証憑書類の提出を受け、運営委員会事務局にて審査の上、対象とする経費に対し、10 万円を上限として、助成承認をしたことを報告する。

○報告(2)第5回コンプライアンス委員会について

(久松委員長)

- ・次に、第5回コンプライアンス委員会について、倉野事務局長より報告させていただく。

(倉野事務局長)

- ・コンプライアンス委員会は、運営委員会のコンプライアンスの推進に係る重要な方針の策定や啓発、連盟理事、監事及び運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員のコンプライアンス違反への対応について、運営委員会の諮問に対し審議し、意見を具申するものである。

- ・3月 31 日に第5回コンプライアンス委員会を開催し、審議を行った。
- ・主な審議事項は3つである。
- ・2024 年度コンプライアンス推進計画の達成状況については、2024 年度のガバナンス確保、コンプライアンス教育、情報公開、監査体制等の達成状況について説明し、問題ないことを確認、承認された。
- ・2025 年度コンプライアンス推進計画(案)については、2024 年度の推進計画を引続き行っていくことを中心に推進計画を策定することを確認、承認された。
- ・2025 年度デフリンピック運営委員会研修実施計画(案)については、利益相反管理研修は4月に1回、コンプライアンス研修は4月と5月の2回実施することを確認、承認された。
- ・2025 年度のコンプライアンス委員会は2回開催する予定である。

○報告(3)第6回利益相反管理委員会について

(久松委員長)

- ・次に、第6回利益相反管理委員会について、倉野事務局長より報告させていただく。

(倉野事務局長)

- ・利益相反管理委員会は、運営委員会の事業活動における取引の公正性や信頼性を確保するため、連盟理事、監事及び運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員の利益相反関係を審査するものである。
- ・3月 14 日に第6回利益相反管理委員会を開催し、役職員等からの利益相反自己申告書の審査及び利益相反管理チェックシートの確認について、審議を行った。
- ・主な審議事項は2つである。
- ・利益相反自己申告書の確認については、役職員等(新たに着任されたもの)から提出された自己申告書を審査し、利益相反事項がないことを確認、承認された。
- ・利益相反管理チェックシートの確認については、役職員等から提出された 2024 年度第4四半期分利益相反管理チェックシートを審査し、全件利益相反やチェック箇所の内容に問題がないことを確認、承認された。

○報告(4)2025 年度利益相反管理研修及びコンプライアンス研修の実施について

(久松委員長)

- ・次に、2025 年度利益相反管理研修及びコンプライアンス研修の実施について、倉野事務局長より報告させていただく。

(倉野事務局長)

- ・全日本ろうあ連盟の理事、監事及びデフリンピック運営委員会の役職員を対象に、以下研修を実施する。
- ・コンプライアンス研修は、4月に東京都スポーツ文化事業団との合同研修で「ガバナンスの基本的枠組み」と「ろう者の文化について」をテーマに実施した。
- ・5月は書面形式での研修で、コンプライアンスとは、内部通報制度、国際スポーツ大会におけるコンプライアンス、情報公開、個人情報、危機管理について法令遵守するための規範意識向上を図った。
- ・利益相反管理研修は、4月に書面形式での研修により、利益相反やスポーツ団体における利益

相反について、利益相反管理のため新たに制定した規程や仕組みについて周知徹底し、職員が遵守すべきルールの理解を図った。

○報告(5) 未来へつながるプログラムについて

(久松委員長)

・次に、未来へつながるプログラムについて、倉野事務局長よりご報告させていただく。

(倉野事務局長)

- ・未来へつながるプログラムについては、2024 年秋から公開しており、全国の小中学校や自治体等から 2025 年3月末時点で 20 件の依頼があった。
- ・提供コンテンツの一つである映画「みんなのデフリンピック」については、教育機関に限り無償で提供。36 校が活用した。
- ・いずれも実施レポートを、デフリンピック大会ポータルサイトに掲載している。
- ・2025 年度からは、全日本ろうあ連盟が受託した、スポーツ庁の令和6年度障害者スポーツ振興事業「パラスポーツイベント開催支援」事業の一つである、ろう学校等の児童・生徒に対する体験学習等の対象として、未来へつながるプログラムの「教育ワークショップ型プログラム」を位置づけることとした。
- ・これにより、対象校に「ろう学校を含む特別支援学校」も加えるととともに、プログラムを実施する際の講師謝金、手話言語通訳費用の一部を連盟が負担することとし、より多くの子ども達がプログラムを体験できる環境整備を促進していく。
- ・実施期間は 2025 年5月1日～11 月 14 日までとしている。また、学習教材の一つに、きこえる子ども向け、きこえない子ども向けの2種類のパンフレットを作成し、体験授業を実施する学校に配布する。
- ・今年4月に行った第1次募集では、24 件の申込があった。今後、第2次募集を行い、予定回数以上の申込があった場合は抽選を行う。
- ・なお、イベントワークショップ型プログラムは、実施主体は自治体や民間団体、企業としているため、対象とはしていない。
- ・実施状況は随時ホームページにて公表予定である。

報告(6) 令和7年度デフリンピックの気運醸成の都の主な取組について

(久松委員長)

・次に、令和7年度デフリンピックの気運醸成の都の主な取組について、清水部長より報告させていただく。

(清水部長)

- ・昨年度に引き続き、多くの皆様に大会に参画してもらえよう、関係者と連携して、様々な機会を捉えて大会への関心を高める取組を幅広く展開する。デフリンピックの更なる認知度向上を図るとともに、大会の気運を盛り上げていく。
- ・今年度のこれまでの取組として、4月2日に国立競技場で実施されたデフサッカー男子日本代表対クリアソン新宿の試合において、手話表現をベースに動きで応援を伝えるサインエールを活用し、デフ日本代表選手を応援した。
- ・5月9日には、大会 200 日前イベントとして、都内小学校で大会アンバサダーの川俣さんやデフテコンドーの星野選手を招いて特別授業を実施した。

- ・また、事業者等と連携し、SusHi Tech Tokyo2025 においてユニバーサルコミュニケーション技術を PR したほか、競技会場等における技術活用の実証も実施してきた。
- ・今後の取組としては、大会時の活用を見据えてサインエールの精度を高めていくとともに、様々な機会を捉えて周知していく。また、大会に向けて、100 日前等の節目の機会を捉えてイベントを実施するとともに、カウントダウンモニュメントを制作し、福島及び静岡を含む全競技会場を巡回する予定である。
- ・そのほか、Web サイトや SNS をはじめとした多様なメディアでの情報発信に加え、大会直前期の集中的な広告展開、年間を通じたイベントへのブース出展、全国へのバッジ、ポスター等の配布を行っていく。
- ・さらに、大会でのユニバーサルコミュニケーション技術の活用に向けて、技術活用の実証を含め準備を着実に進めていく。
- ・また、都内の小中高等学校等を対象として、子ども観戦、体験活動事業を実施していく。

○報告(7)大会の準備状況について

(久松委員長)

- ・次に、大会の準備状況について、北島部長より報告させていただく。

(北島部長)

- ・大会の準備状況について、本日は、セッションスケジュール及び観戦について、その詳細をご説明する。
- ・第一に、種目別のセッションスケジュールについて、先般、技術要件といわれる競技のレギュレーションが決定した。それに基づき、選手の予備登録の結果等を踏まえ ICSD と協議をした結果を、21 競技、213 種目のセッションスケジュール一覧として6月 18 日に公表予定である。
- ・セッションスケジュールは、組合せ(ドロー)が決定するのはまだ先であることなどもあり、あくまでも現時点の予定である。また、競技の進行上、前後する場合がある。
- ・実施種目については、8月～10 月までが参加選手の本登録のため、正式に選手の個人名が確定し、ICSD が名簿の確認をした後に、すべてのセッションスケジュールが決定する。
- ・第二に、大会観戦に係る今後の予定について、各競技の観戦は無料でご覧いただくことができる。競技会場ごとの収容人数や開場時間等、競技会場ごとの詳細な情報については、8月頃に公表を予定している。
- ・開閉会式に関しては、東京体育館で実施し、無料で観覧いただける予定にしている。詳細については、今後公表を予定している。
- ・全ての競技及び開閉会式については、動画配信を予定している。

○報告(8)「つながる募金」によるキャッシュレス募金受付の開始について

(久松委員長)

- ・「つながる募金」によるキャッシュレス募金受付の開始について、板倉部長より報告させていただく。

(板倉部長)

- ・スマートフォン等で気軽に、より便利に大会に参画するための仕組みとして、現在 V ポイント、「d 払い®」及び AmazonPay の3種類のキャッシュレス募金の受付を行っている。
- ・この3種類に加え、6月 12 日より、協賛社であるソフトバンク社の協力を得て、「つながる募金」を開始する予定である。

- ・つながる募金は PayPay による募金にも対応しており、より多様な形で、より多くの方にご協力をいただけるものと考えている。

○報告(9)協賛契約の状況等について

(久松委員長)

- ・協賛契約の状況等について、板倉部長より報告させていただく。

(板倉部長)

- ・協賛企業については、前回ご報告した際には 40 者であったが、資料のとおり、6月6日時点で、64 者 67 件となっており、24 者増えている。現在も、協賛契約の申し込みをいただいたり、申し込みに向けて調整していたりする企業もいくつかある。
- ・協賛特典を使用できる条件が6月中の申し込みとなっているため、今月中にお申込みいただけるよう、引き続き調整を進めていく。
- ・ブース出展やスポンサーボード、競技会場内大型ビジョン等の協賛特典を実施できるよう調整を進めている。

【意見交換】

(久松委員長)

- ・それではここで、出席者の方々から意見をいただければと思う。まずは、薬師寺委員からいかがか。

(薬師寺委員)

- ・大会が近づくにつれ、今後、さらに様々なことに大会の費用が必要になってくる。なにかきっかけがあれば協力していただけることもあると思うため、その入口を探しながら、広報に努めていくことが必要である。
- ・教育ワークショップ型プログラムについて、もう少し応募があってもいいのではないかと思ったので、どのように広報しているのかを教えてください。また、教材も提供しているということで、教材の使用状況も分かれば教えてください。
- ・開会式やチケットの購入方法等についてよく聞かれるが、そのような声に対してなにも広報がないことが不安を与えてしまっている。具体的でなくても構わないので、広報の時期と方法についてお知らせしたうえで、それまでもう少しお待ちくださいというような案内があればよい。毎日ホームページをチェックしている方もいる。逆に言えば、それくらいの期待度がある。その期待に応えるためにも、適宜、広報や情報提供があればありがたい。
- ・キャラバン活動についても、全国各地で期待が高まっている。仕事で地方に行った際に、「デフリンピックは東京だけのもの、東京だけで盛り上がり自分達には関係ない」という声をよく聞く。そうではなく、全員に関係があり、共生社会を作っていくためにもデフリンピックを盛り上げていく必要があるということを感じていただき協力いただけるよう、キャラバン活動を、事故がないよう安全に、地域の資源も活用しながら各地で盛り上げられる工夫をお願いしたい。

(久松委員長)

- ・教育ワークショップ型プログラムの応募が少ないというご指摘に関しては承知している。現在、2次募集の途中ということもあるため、もう少し応募が増えるのではないかと期待している。
- ・大会に関する情報提供については、現在、実務担当者レベルで、東京都スポーツ文化事業団、東京都と日々調整をしながら進めており、可能な限り丁寧な情報発信に努めたいと考えている。
- ・全国キャラバン活動については、デフリンピックが東京での開催であるが、全国で気運醸成される

ための取組みであるので、全国知事会等に積極的に働きかけていきたい。委員のご意見を基に、実務レベルでも情報の発信方法を改めて検討していきたいと思う。

(石原委員)

- ・筑波技術大学でもボランティア含め、様々な準備が進んでいる。大学としても、デフリンピックの期間は公的、全学的に授業を休講にして、ボランティア含めデフリンピックに参加できる体制を作っている。
- ・教材については筑波技術大学から特別支援学校にアナウンスすることもできる。このような教材があることを知らなかったのも、大学にもお知らせいただければアナウンス等協力できる。

(延興委員)

- ・沢山ご報告いただき、各持ち場で大変努力され準備が非常に進んでいることに対してお礼を申し上げる。スポンサーも増えてくるなどありがたいことばかりである。
- ・特に、素晴らしく重要だと思うのは未来へつながるプログラムで、スポーツだけでなく文化や演劇等様々なことが一緒に進められていることが本当に素晴らしいと思う。また、学校教育でデフのことが取り上げられることは、きこえる子ども達への教育にとっても良いことだが、きこえない方自身が講演をする機会を持ったり、文化活動や発表する機会が増えたりする、それもきこえる人に対して発信の機会が増えるというのは本当に素晴らしいことで、これがデフリンピックを日本で開催する1つの大きな意味だと感じている。今後もぜひ、聴覚障害の方が自己表現をする機会が増えるよう引き続きお願いしたい。
- ・競技観戦やチケットについて、どこまでがオープンになっているのかを確認したい。競技観戦が無料であることは公言しているのか。開閉会式はどうか。聞かれた時の正しい答え方をご教示いただきたい。
- ・昨年の夏に、パリのパラリンピックで、ボランティアや競技運営をした。ただ、まず、セッションスケジュールがぎりぎりです。予選の結果や時間変更等もあり、いつどこに行けばなにが観られるのかということ把握するのが非常に難しかった。そのため、大会直前あるいは大会中において、いつどこに行けばなにが観られて、今日のみどころはなにか、ということリアルタイムで発信することをぜひお願いしたい。そのような工夫をしないと、せっかくデフリンピックを観にいきたいと思っている人達が、どこに行ってもいいかわからないという事態が起こってしまう。今分らないのは仕方ないが、大会直前あるいは大会中に、明日のみどころや日本人選手の情報等をぜひ発信していただきたい。

(北島部長)

- ・開閉会式や競技の観戦について無料であることは公表している。ただ、開閉会式に関しては、現在検討中というのが正式な情報である。6月18日に大会準備連携会議があり、そのあとのプレスセミナーで、改めて観戦についての考え方やチケットは無料であること、開閉会式も無料であることも含めてお伝えする予定。

(板倉部長)

- ・いつどこでなにを観られるのかということについては、観戦ガイドという形で、会場や競技、時間帯、また見どころについてまとめたものを出したいと考えている。また、組合せ等については、決まってくるのは直前になるが、ホームページで、組合せや結果についてなるべく早い段階でオープンにできるよう準備を進めている。メディアからも試合の結果を早く出してほしいという要望があるため、速やかにホームページに掲載できるよう、現在検討している。

(久松委員長)

- ・今後、私共についても色々な多くの問合せに対して答えていかなければならない。東京都、事業

団、ろうあ連盟ともに、実務レベルでかなり努力をしている状況だが、引き続き可能な限り情報を提供できるよう努力していきたい。

(小椋委員)

- ・今日はじめての参加で、本当に多岐にわたる細かい計画を練っているということで、非常に驚き感動した。そして、質問と意見が2つずつある。
- ・1つ目の質問はコンプライアンス研修について、今年度は4月と5月に研修を実施する形で承認したという話だが、実施状況について、4月は実施し5月は未実施という状況に思うが、そのあたりをご教示いただきたい。
- ・2つ目の質問は、デフリンピック・フェスティバルについて、全国各地9か所でフェスティバルが行われ、多くの方々が集うことができた非常にいい事例だが、運営委員会として反省点や気づいた点等あるのか。今後の参考になると思うのでぜひご教示いただきたい。
- ・次に意見として、時々東京に出向く際に気づいたことがある。それは、JR 山手線に 70 くらいのサイネージが掲げられており、それを見ると、デフリンピックのことについての広報をあまり見かけないということである。できれば、もう少し時期が近づけば、山手線の中でサイネージでの PR 等が実施できればと思うのでぜひお願いしたい。以前、連盟で役員をやっていた際に経済産業省と話し合いをしたとき、サイネージについて話題に上がった。サイネージを使う場合は、それなりの費用がかかる。別のものであれば、少し安くできるという話も出ていたので、そのようなことも視野に入れつつ、今後デフリンピックの周知方法にさらに力を入れていただきたい。
- ・2つ目の意見として、ろう学校に通っている児童のご両親から非常に強い要望があった。それは、デフリンピックの開閉会式や競技の情報はいつ発表なのか、公式の情報がまったくないということだった。授業のカリキュラムはすでに決まっており、前もって計画を立てなければならない現場の立場もあるため、できるだけ早く公開していただきたい。

(倉野事務局長)

- ・ご指摘のとおり、資料を見ると5月は未完了というように見えるが、実際には書面形式で終わっている。このあたりの十分な記載がなかったが、終了している。
- ・2つ目の質問の反省点や気づいた点について、デフリンピック・フェスティバルを各地域で開催したことで、子どもも含めて多くの方々に見ていただけた。一方で、デフ競技の紹介等色々実施し、デフアスリートの参加もあったが、デフ競技を実施するうえでのポイントや一般の競技とデフ競技の違いが一般の方からみると分かりにくいということが課題として出てきた。デフリンピックの競技は 21 競技あることは伝えているが、ではそのデフ競技の特質や特殊性、特徴をもう少し分かりやすく皆様に伝えることができないか工夫が必要だと感じた。今年度、デフリンピックのイベントにデフアスリートを招いてさらに PR をしていくが、さらにみなさんに分かっていただけ場所を作るという課題をクリアできるよう工夫していく。

(清水部長)

- ・気運醸成に関するご意見、特に交通機関に関する気運醸成については、東京都としても JR 東日本だけではなく東京メトロや都営交通も含めて、ポスターの配布等色々なご協力をお願いをしているところである。大会へ向けさらに露出を増やしていくことは考えていきたいと思っているが、経費の関係もあるため、そのあたりも踏まえながら取組を進めていきたい。

(板倉部長)

- ・JR 東日本と東京メトロについては協賛社になっていただいております、3月にさくらキャンペーンということで、協賛社のご協力をいただいて広報キャンペーンを実施した。その際には、JR 東日本の一

部の駅でポスターを貼っていただいたり、サイネージにビジュアルを出していただいたりした。東京メトロでも、車内のビジョンに映像を流していただくなどもあった。協賛ではないが、羽田空港では、かなり多くのところで、大きなビジョンでビジュアルを出していただいた。大会本番に向けては、その3社以外にもほかの鉄道会社や成田空港等と今も交渉しており、それが協賛協力になるか広報協力になるかは分からないが、様々な交通機関でビジュアルの映像、またはポスターの掲載等は今取り組んでいる。

(北島部長)

- ・開閉会式については、詳細の公表時期がいつかということも含めて広報に向けて準備中のため、ご了承いただければと思う。

(久松委員長)

- ・デフリンピックの関係者が多く、その関係者間での調整ということで非常に時間がかかっていることもご了承いただきたい。事業団の職員の皆様には、そこに非常に時間をかけながら丁寧に進めているという状況がある。気運醸成に関しても、国土交通省等からの協力をいただいているところで、国内の主要駅にポスターを貼るという取組にご協力いただけると聞いている。引き続き全国各地に啓発活動ができるように努力していく。

(薬師寺委員)

- ・デフリンピック・フェスティバルについての倉野事務局長の回答に加えて、実は最初は、デフリンピック・フェスティバルは、箱モノ、いわゆる体育館や会場を借りて何人入ったかということにこだわっていたが、それはやめることになった。その反省点として広がりがないということがあったので、今は、多くの方に見ていただけるような会場を選んで開催しているという状況がある。私も最初、箱モノの会場で開催しているデフリンピック・フェスティバルへ行ったが、やはり集まってくださる方はいつも同じ方々ばかりだった。ショッピングセンターで開くと、通りすがりの方々に非常興味を持って見ていただけたというところがあった。多くの方々の目に留めていただけているということは、デフリンピック・フェスティバルの目的が大きく果たしているのではないかと思う。今後、色々な会場で開催するにあたりお気づきのことがあれば、ぜひ運営委員会で報告いただければ、私共も一緒に考えさせていただきたいと思っている。

(石原委員)

- ・広報に関して、お金をかけずとも、X や Instagram 等に誰かから流してもらおうと自然に拡散していく。30 代以下の人達は、そのような SNS をよく見ているため1番効果がある。そのため、誰かから流していただくというのは非常に効果があると思う。

(久松委員長)

- ・あらゆる手段を使って、啓発活動や発信をしていこうと思っている。できるだけ努力して発信を続けていきたい。

(畑中委員)

- ・色々なご報告に感謝申し上げます。そして、私からは質問とお礼とお願いがある。
- ・まず質問について、報告事項にあったコンプライアンス委員会と利益相反管理委員会について、現状、特にコンプライアンス違反案件や利益相反取引関係はないという理解でよいのか。
- ・続いてお礼について、ここに至るまでの間に、通報やコンプライアンス違反の問題になるような案件、利益相反に問題がある取引が現時点ではないということであれば、やはりそれは、事務局の皆様をはじめご尽力いただいた結果であると思う。そもそもコンプライアンス違反というのは、わざとやる人はあまりおらず、意識をしていないと自然とうっかりやってしまうものである。形式的だけではなく、何

度もしっかりとコンプライアンス違反をしないという目的の下研修が実施され、しっかりと意識づけをされているということは素晴らしいことだと思う。

- ・次にお願ひというのは、今の話に引き続いて、今後は、外部の人が入ってくるなどさらにいろいろな人が関わってくると思うので、より一層、通報案件やコンプライアンス違反がないようにということを周知していただきたい。また利益相反取引について、役職員が行うために利益相反取引違反としてピックアップされるのであって、仮に役職員が関わっていなかったとしても、外部の人から見たらこの取引はどうなのか、公正でフェアなものだと思ってもらえるかという意識を、常に頭のどこかに意識として持っていてほしい。

- ・最後に、広報に関するお願ひについて、私は JOC の加盟団体の中央競技団体に役職員として所属しているが、JOC の会合や研修の中でも、大規模大会としてアジア大会と並んでデフリンピックが行われるというような話が出てくるようになり、いよいよ迫っていると感じている。しかし、せっかくスポーツ競技団体というまさにスポーツに興味がある人達の集まりにも関わらず、なかなかやはりデフリンピックがあるとただ思っている人が大半だと思うので、いつどこでどういうことをやるのかということを、少ししつこいくらいに何回か広報していただけると話題に出ることにもなり、またそうなれば私も話を出しやすいのでご検討いただきたい。

(倉野事務局長)

- ・今のところ、幸いにも、コンプライアンス違反事例や利益相反の案件はない。ただ、畑中委員がおっしゃったように、日々、外部からの見られ方をしっかりと意識すること、また、自分でも知識を高めていくことが我々に求められていることだと感じた。これからはしっかりと法令順守を頭に入れながら、また利益相反に関してもしっかりと学んで高めていきたいと思っている。

(久松委員長)

- ・補足だが、東京都でも、職員が非常に丁寧に指導してくれている。運営委員会でもコンプライアンス、また利益相反に関して、本当にしっかりとマネジメントができている状況だということを委員長として報告させていただきたい。また、様々なところで色々な人達と会うが、東京都がしっかりと指導し確固たる委員会を作っており、コンプライアンスレベル、マネジメントレベルは非常に高いものだと思認している。

(清水部長)

- ・JOC や JPSA への広報について、各団体にも参加いただいている大会準備連携会議という会議体があり、常にデフリンピックの情報共有等をしているところである。ご意見いただいたように、改めて、各団体に周知のお願いをさせていただく。

(久松委員長)

- ・6月 18 日に次回の大会準備連携会議があり、JOC や JPSA の委員の皆様が参加される。そういった会議体があるため、しっかりと情報共有し、情報発信のご協力をお願いしたいと考えている。

(松橋委員)

- ・委員の皆様から様々な情報を教えていただき勉強になった。そこで2つ質問がある。
- ・まず、試合の動画配信があるということだが、どういうものなのか。例えば YouTube なのかテレビなのか、動画配信方法をご教示いただきたい。
- ・次に、デフリンピックの会場として、福島県や伊豆大島等、色々なところがあるが、開催される地域の住民にデフリンピックがまだ浸透していない状況があるので、会場市となる行政からの協力をもらい住民に直接 PR する必要があると思う。例えば、私の住んでいる地域は競技会場の1つになっているが、行政での PR 活動は0で正直なにも実感がない。他の自治体でももしかしたら強烈なアピール

をしているところがあるかもしれないが、私の地域ではまったくない。予算の関係もあるかとは思いますが、行政の広報活動について、また広報活動にあたり国から補助がもらえるのか、そのあたりの仕組みをお聞きしたい。

(板倉部長)

- ・競技の映像配信について、デフリンピック準備運営本部の方で YouTube による配信を予定している。各競技の状況を YouTube で見られるようにということで、全競技について配信する予定。

(北島部長)

- ・地方会場の PR の状況について、例えば、静岡県と福島県であれば、ともに独自に県の予算を取っていただき、デフリンピックの PR イベント等をやっている。なかなか皆様が直接感じることは少ないかもしれないが、静岡県は我々が作るよりも早くのぼりを作り色々なところに飾る等、それぞれかなり積極的にやっている。また、大会期間中は県の子ども達を会場に招待するプログラム等も検討していると聞いている。そういった部分でかなり県としても力を入れて様々な取り組みをしている。現在、メディアの方々にもかなり興味を持っていただき、我々事業団の方にそういった問合せをいただいた際には適切に情報を提供している。なお、都内に関しては、例えば、スポーツ団体から、毎月出している広報誌でデフリンピック特集を組みたいという情報が欲しいというお話をいただくこともある。その広報誌は区内 15 万世帯に配るもので、その中でもかなりの紙面を割きデフリンピックの特集を組んでいただいた。そういったところで事業団としてはサポートをしっかりしている。区や市の広報誌等は、それぞれの自治体の立場や考え方で紙面が構成されているが、こちらとしてはぜひ取り上げていただきたいと思っているため、取り上げていただけるようであれば適切な情報提供をしていく。市民としてデフリンピックの情報がないということを自治体の職員に言っていただくと動いていただけるかもしれない。我々事業団や東京都の立場から広報活動等を行うよう指示することはできないので、そこはご理解いただきたい。

(久松委員長)

- ・東京都内の各区、各市においては、東京都が一生懸命関係性を作りながら、事業団としても進めておられご努力いただいている。またご報告をいただきたい。東京都以外は連盟が中心となり、各県、各市と関わりを作りながら、気運醸成のサポートをしている。大会エンブレムの使用申請も毎日のように来ており、問合せも日々 10～20 くらいあるので、それだけ関心度が高まっている現れだと受け止めている。

(渡邊委員)

- ・気運醸成についてどう進めていくかということは私も考えているところである。
- ・そもそもデフリンピックを知っている人がどれだけいるかということだが、東京都で調査したところ、一昨年の認知度が 14%、ところが、デフリンピックが決まり様々な広報を行った結果、去年は 39% まで上がった。今年はいよいよ大会本番の年だということでメディアに取り上げていただく回数も増え、SNS でも発信をしているため、今後も認知度は上昇していくのではないかとと思っている。確かになんとなくまだまだという感じはするが、日本人の特性として、本番が近くなれば近くなるほど盛り上がるというところがあるのではないかと思う。大阪万博もいざ始まるとものすごく関心が高まり、連日満員のような状態であるということを聞いている。デフリンピックを盛り上げるために、さらに広報しなければならないと、皆様の話を聞いて感じた。東京都としても、先ほどお話があったように、市区町村に気運醸成のイベントを開催するための補助金を出したり、あるいは色々なところにポスターを貼る願いをしたり、様々なことに取り組んでいる。
- ・全国にバッジやポスター等を提供しているが、そのような中で今後キャラバンカーが全国を回るとい

うことで我々も大変期待をしている。なにかお手伝いできることがあれば、ぜひ協力していきたいと思っている。

- また、キャラバンカーが全国を回る際に、行った先の都道府県のゆるキャラやマスコットをぜひデフリンピック応援隊にスカウトしていただきたいと考えている。デフリンピック応援隊へは、全国のゆるキャラやマスコットに参加していただいております、その数は今 60 を超えている。これが、全国津々浦々、皆様が参加してくれるとさらに盛り上がっていくのかなと思う。キャラバンカーの成功をお祈りしているのでぜひお願いしたい。

- セッションスケジュールを見て、改めて、会場を満員にし、その満員の観客が選手を応援する、という環境をぜひ作っていきたくと思った。平日は子ども達ができるだけ観戦できるように準備を進めているので、平日は子ども達が応援し、土日は一般の方々が応援するような形ができればと思っている。そのために今後、多くの方に、いつどこでどの競技が観られるのか、また、いつぐらいにそのような情報が得られるのかということを広報していく必要があると考えている。やはり大会が成功することとは、選手に喜んでいただくと同時に観客の方に喜んでいただいて、それが共生社会に繋がっていく、また、日本がよりよい社会になっていくということだと思っているので、ぜひ皆様と一緒に力を合わせて頑張っていきたい。

(久松委員長)

- 今回、1番大きな課題は、デフリンピックを知らない人が多いという実態である。どのように国民に知らしめていくか、知名度を上げていくか、ということについての大きな課題をお示しいただいた。今、周知がだんだん進んでおり、認知度も上がったと報告をいただいた。こちらも全力を注いでいきたいと思っている。

- 他に補足やご発言はあるか。

(薬師寺委員)

- 2点ある。まず1点目は、東京都医師会で講演をした際に、ドクターの皆様から、まったくデフリンピックを知らないということやデフ選手だけではなく観客にろう者がいた時に私達はどうしたらいいのか、という意見があった。デフリンピックのために東京都に集まっていただくのはいいが、各競技会場以外ではどのような形で医療を提供していくのか、また、そのような方々がいらした時にはどのような形で接したらいいのか。特に、日本手話言語や国際手話で簡単な表現ができたり聞き取りができたりするために、ビデオ教材等があれば嬉しいという意見もいただいた。やはり、安全また安心に開催するためには、全国からいらっしゃるろう者のための環境整備や物が必要だと思った。電話リレーサービスや遠隔手話言語通訳サービス等の情報をまったくご存じなかったもので、そういう部分の広報等もこれから努めていかなければならないのではないかと思います。

- 次に2点目は、色々な方法で資金調達をしているという話があったが、海外から協力の申し出があった場合はどうすればよいか。実際にご相談いただいたこともある。現在、皆様からご協力をいただいているが、海外から協力する方法はあるのか。

(北島部長)

- まず医療の関係について、東京都医師会とは、救護体制について先生方と、実際にどのような対応をするのかということについて相談したうえで様々な対策をとっている。ただ、医師会の内部でのデフリンピック開催の周知については我々としては関与しにくい部分がある。我々としては、準備状況や医師の対応状況等については相談させていただいたうえで展開をしている。

- 改めて現状を申し上げますと、各競技団体と関係のあるドクターが非常に多くおり、加えて、それぞれの競技の特性に応じた怪我や競技中の救護スタッフ介入ルール等があるため、そのような部分に詳

しい先生方になるべく現場に来ていただくという手配をお願いしている。開閉会式といった大会期間中に多くの集客が見込まれる場面には、東京消防庁に特別な警戒体制をとっていただいたうえで、東京都医師会よりドクター等を派遣していただくということで調整をしている。

- そのほか、実際に怪我があった際の対応に関しては、各選手に、基礎情報が書かれた救急医療情報カードを ID カードケースの中に入れる仕組みも作っているので、そういったものを持っていれば、救急搬送された先で対応できるということも考えている。
- また、基本的には、現場に救急救命士を1人ずつ配置し、観客席を含め対応することで、救急隊の搬送がスムーズにいくような形にする。また、搬送先医療機関に関しては、都立病院を中心に、受入指定病院という形ではないが、耳のきこえない、きこえにくい大会参加者を、救急隊が他の医療機関に優先して収容依頼連絡を行う医療機関として選定している。
- 加えて、メディカルチームでは、現在、東京消防庁からの出向職員を中心として、大会期間中は、耳のきこえない、きこえにくい方が救急搬送される可能性が高いことを、全救急隊に周知した状況で大会を迎える準備もしている。
- 医療に関してはどうしても 100%は難しいが、可能な限りの協力体制等を取る形で準備している。
- 遠隔医療に関しては、救護の場面での情報保障は指差しボード等で痛み等を表現することや、意識混濁をしている時は耳がきこえる、きこえないに関わらずドクターが重症度等を判断することになるので、先ほど申し上げた救急医療情報カードのようなもので、血液型、既往症、薬物アレルギー等の本人から申請いただいた情報をベースに対応する予定である。
- 海外からのご協力に関しては、我々としても丁寧な受け入れをしたいと考えているが、現実的に海外の方とやり取りや受け入れにあたっての体制等の課題もあり、現時点で積極的に海外の方を受け入れることは難しいと現場では考えている。海外の方々からの積極的なご支援はありがたいが、我々としてもできることとできないことがあるということをご理解いただきたい。

(薬師寺委員)

- 選手ではなく観客の方が心配である。実際に医師会に所属されている先生方は、東京都の場合は 30%くらいである。それ以外の先生方でもデフリンピックのことを知っていただき非常に身近に感じていただいている方もいるため、次の一步を考えたときに、例えば、「痛い」は日本手話言語でどのように表現するのか、また国際手話だとどのように表現するのかというようなことを周知する等し、少しでも繋げていく必要がある。私も選手団に帯同したことがあるが、実際はほとんど怪我ではなく、腹痛や風邪等の受診の方が多い。そのような状況や興味を持っていただいているということもあるので、気運醸成の次のステップとして、また、デフリンピックが終わった後にろう者が病院に行ったときに手話でコミュニケーションをとっても違和感ないようになる入口を作ることに繋がればありがたい。

(北島部長)

- そのあたりに関して、会話の入口を手話でできるだけそのあとのコミュニケーションがかなりスムーズになると思う。例えば、今回選手を受け入れていただくホテルに関しては、受付スタッフへの手話に関する教育プログラムを実施する予定である。ただ、このようなことをドクターに対して我々からお願いするのはなかなか難しい部分があるが、今回先生からそのようなお話をいただき、広く周知するという話をしやすい環境を提供いただいたと思うので、まずは大会の救護スタッフ向けの事前演習に「痛い」等の基本的なことの、日本手話言語や国際手話での表現方法を盛り込み、また、大会を通じた経験を踏まえ、今後、医師の方々へどのように周知するかを考えていきたい。

(久松委員長)

- ・耳鼻咽喉科学会のセミナーにてろう者の医師が講演をしたことがあったが、その講演は参加者からの評判が非常に良かった。そこから、きこえないという体験を基にアピールをする方が伝わりやすいのではないか、ということを感じた。東京都聴覚障害者連盟にもぜひご協力をいただき、東京都医師会と繋げていただければ、より広まる可能性もあるのではないかと考えている。また、日本医師会との交流もとおして、医師の理解を深められるように努力する。
- ・海外からの様々な支援にかかる体制整備については、北島部長からのご説明のとおり、費用面の取扱いについてなかなか難しいところがある。国によっては費用面で厳しい国もあり様々な方法がある中で、事業団としてどういう風に考えていくのかは非常に苦労するところだと思うので、扱い方や仕組みづくりは今の時点での構築は厳しいと理解をしている。

(小椋委員)

- ・「未来へつながるプログラム」についてワークショップがあるとのことだが、今のところ 24 件の申請を受けており、上限を超えた分は抽選をするということについて他に方法を考えられないか。ろう学校や支援学校の場合は、子ども達に適切な情報を提供し、未来のアスリートになるという夢を持たせる重要な目的がある。また、一般の小中学校では、きこえる子ども達にとって障害者理解という観点から非常に重要なプログラムである。全国的に見て教育施設は多いため、予定数を上回ると抽選であとは対応できないというような計画についてはもう少し工夫が必要である。

(久松委員長)

- ・1つご理解いただきたいことがある。まず、都内については、東京都が中心となって担っていただけており、すべての小中学校に周知し活動してくださっている。運営委員会では、イベントを50か所以上でやらなければならないということ、また全国キャラバン運動についても各都道府県との調整に時間を要しており、まだ調整が終わっていないところもある。加えて、この教育プログラムについてはスポーツ庁からの助成の中でやらなければならない事業となっている。
- ・都道府県教育委員会の協力をお願いしている。例えば、地元の当事者団体やスポーツ団体等に関わっていただいて、学校で勉強会や体験会のようなものを開いてほしいと教育委員会にお願いしたい。全国それぞれの団体が地元のデフスポーツ選手を見つけ、教育プログラムのような形で、地元の協力を得ながらそれぞれの都道府県で頑張っていただきたいと思っている。

(小椋委員)

- ・山梨県でも、ポスターを配布する等デフリンピックについてしっかりと教育施設に PR しているところである。久松委員長がおっしゃったように、さらに工夫しながら展開していきたいと思う。

(石原委員)

- ・昨年の末から今年に入り、世界中から筑波技術大学に来られる方が増えている。それはきこえる人、きこえない人、みえる人、みえない人等様々で、人数も非常に増えている。その理由は、日本のアニメ、コミック等の文化があり日本が人気だからである。ということは、デフリンピックの時に、ろう者や難聴者だけではなく、色々な人が日本に多く来ると想定される。そして、それはグローバルな共生社会の感覚を日本人が接するいい機会だと思う。今、PR について様々な意見が出ているが、デフリンピックが始まる前から色々なことが絶対に起き、それは日本手話言語や国際手話などのようなものを超えた大きなものが絶対に出てくると思う。自然と、マスコミが取り上げざるを得ないような状況が起きる。それが何なのかは予想できない部分もあるが、我々はコンプライアンス意識を持ちながらできることをやればいいと思う。

(オブザーバー 越智氏(東京都聴覚障害者連盟))

- ・今、東京都聴覚障害者連盟には色々な依頼が来ており動いている。例えば、先ほど話が出たホテルの職員研修のような依頼が来ている。通常の研修であれば、日本手話言語で終わるところが、今年はデフリンピックが開催されるということで、身振りもあわせて日本手話言語と国際手話をやるなど、工夫しながら教えている。
- ・また、先ほど薬師寺委員がおっしゃった、イベント会場は箱モノの会場では良くないということについては同感である。加えて、関係のない組織や団体と一緒にやることも非常に大事な視点だと考えている。今、東京青年会議所と一緒に、青年会議所のイベントに参加し、手話を教えたりデフリンピックについての講話を実施したりしているが、参加する人達はデフリンピックのことを全く知らないあるいは関係ない人達であり、そういったところで少しずつ意識向上が図られていると思う。
- ・加えて、漫画やアニメ等を活用して幅広くアピールできないかと考えている。例えば、オリパラの時も、有名な漫画家にパラスポーツの絵を描いていただき展示をしていた。デフリンピックでも同じようなことができないかと思っている。「聲の形」や最近では「王様ランキング」等のアニメで聞こえない人が取り上げられているので、そのようなアピールができれば関心が高まるのではないかと思うのでぜひ提案したい。

(久松委員長)

- ・本日皆様からいただいた貴重なご意見を参考に、引き続き大会の成功に向けた準備を進めていく。
- ・本日はご多忙の中ご参集いただき、感謝申し上げます。